

♪ 2017年度 **poco a poco** ♪  
Nr. 11 2017年9月11日(月) 文責: プファイル・辰巳

## 寒暖差にご注意!

朝夕、めっきり冷え込むようになりました。寒暖差が激しいので、体調をくずしている人はいませんか? 音楽室でも咳をしている人を見かけるようになりました。気温に合わせた服装を心がけて、健康に過ごしたいものです。

さて、先週は中学部2年生の修学旅行、今週は小学部6年生の修学旅行です。私も明日から6年生と一緒にミュンヘン方面へ出かけます。音楽の授業が抜けてしまう学年のみなさん、ごめんなさい。戻ってきたら、また一緒に元気に歌いましょうね。



### 「音楽のタベ」について

先日お知らせしました通り、ただいま9月22日(金)「音楽のタベ」の申し込みを受け付けています。申し込みの際しまして、以下の点にご留意ください。

- お申し込みは、費用と一緒にお願いいたします。  
(領収証をお渡ししています)
- 幼稚部のお子様で、一席確保される場合は、子ども料金を頂いておりますので、ご了承ください。  
※乳幼児でお膝の上で聞かれる場合は、料金は頂きませんが、当日、静かにできない場合は、申し訳ありませんが、すみやかにご退室願います。
- お申し込みはお早めをお願いします。

## 音楽こぼれ話 <作曲家のこの一曲 ⑤ 楽聖 ベートーヴェン 交響曲 第7番 イ長調 Op.92>

あまりにも有名なドイツを代表する作曲家ルートヴィヒ・ファン・ベートーヴェンについては、みなさんもたくさんのご存知かと思います。

ベートーヴェンがボンに生まれたこと、先祖はオランダ人であったこと、前回紹介したヨーゼフ・ハイドンがベートーヴェンの先生だったこと、難聴と戦いながらの一生であったこと・・・。

作品も、ポピュラーなものがたくさんありますね。「英雄」「運命」「田園」「第9」「エリーゼのために」「悲愴」「熱情」「フィデリオ」・・・。素晴らしい作品が目白押しの中から今回選曲させていただいたのは、交響曲第7番です。なぜこの曲を選んだかという、この曲を聴くと何かしら元気づけられ、「前向きに生きよう」というような気持ちにさせられるからです。ベートーヴェンの音楽の持つ「生命力」のようなものに惹きつけられるのでしょうか?

ドイツのボンで生まれたベートーヴェンは、22歳でウィーンに移住しました。始めは、ピアノ演奏の名手としてウィーンの音楽界にデビューしたそうです。ところが、ご存知の通り、20代の後半からベートーヴェンの耳の具合が悪くなり始めました。一時は希望を失い、自殺まで考えたほど(遺書をしたためるところまでいきました。)悩んだベートーヴェンでしたが、40歳ごろほとんど耳が聴こえなくなったにもかかわらず、56歳で世を去る直前まで作曲を続けました。

交響曲第7番を作曲したのが、1811~1812年のことだったそうですから、この曲を作曲している頃、ベートーヴェンの耳はもうほとんど聞こえていない状態でした。にもかかわらず、この第7交響曲には、全曲を通して熱い生命力が流れているような気がします。第1楽章の出だしの力強い和音、宿命に抵抗するような暗くも力強い2楽章、その宿命を受け入れ、暗雲を振り切ったような3楽章、そして第4楽章の生命力あふれんばかりの軽快なメロディと和音。

ひと昔前のドラマ「のだめカンタービレ」でもしばしば演奏されたこのベートーヴェンの交響曲。機会があれば、是非アルテオーパーなどでオーケストラの生演奏で聞いていただきたいですが、CDやYOUTUBEなどでも、素晴らしい録音が聴けます。若かりし頃の久澤征爾とベルリン・フィルの録音などいかがでしょうか?



ベートーヴェン  
(1770-1827)